慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	都久志 創刊號(福岡市都久志刊行會發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.3 (1931. 9) ,p.204(546)- 204(546)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0205

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

地にして、こは皇母坂にて後村上天皇御生母新待賢門院廉子の御墓の地と傳へ、又檜尾陵と同一形式の檜尾塚は高貴の御方の御陵と稱し、何れも近々陵墓參考地として御指定に相成るとの事、余も先年親しく拜謁せしこともあり、寔に欣喜すべきである。因に先年發見の當寺過去帳の報恩追資中に、當寺に御緣故深い、長慶天皇には御髮を山內に埋められしと附記せられて居るので、右の御塚を其の御埋髮の地に擬せられて居る。

次に特記すべきは當寺を中心として組織されし大日本楠公會のことで、こは余の知友たりし當寺顧問故山中梅園師が思想國難の秋に楠公精神の發揚を首唱せしものにかゝり、昭和二年十月大阪に於て發會式擧行以來東西有志の勢援を得て、燎原の火の如く增々進展し、着々として新事業を起し、又去る五月廿三日以來數日間、山內に於て楠公六百年祭を擧行し、日々數千の參列者を見るに至つた。

本書はこの六百年祭に際し、記念出版せられしものにかゝり、當寺の沿革より大日本楠公會の近況に至る迄を詳述せらしものである。終に余は編者富賀鹿藏氏の勞を謝し、合せて大日本楠公會首唱者故山中梅園師の靈を敬弔する。（昭和六、六、二九、武田勝藏）

都久志　創刊號　（福岡市都久志刊行會發行）

今次、九州の鄕土史家筑紫賴定氏外三氏の發起にかゝり、都久志刊行會が組織せられ、其の機關雜誌として「都久志」が年六回刊行せらるゝことゝなり、先づ創刊號を惠投せられた。同會は又鄕土史料寫眞、鄕土文獻、稀書等の刊行を企畫し、既に刊行目錄も發表せられて居る。

九州北部が、我が古代文化の中心、近世に至る迄の外來文化の關門、はた外寇擊退の第一線たる等は周知の史實で、この中には先人未決のまゝに殘され、將來に於て決せらるべき幾多の難問題が存して居る。仍つて如上、鄕土史家の奮起は學界のため慶賀の一事である。同地にありて既に「筑紫史談」等の鄕土史研究雜誌が刊行せられて居れば、其の姉妹と見るべき本誌は共によく協力し間隙なく鄕土史研究上健全なる發展を切望するものである。因に本誌所載の長沼賢海九大敎授の「九州の文化と博多」の一篇はお國自慢の一卷で面白く拜讀した。（昭和六、七、一〇、武田勝藏）

彙報

昭和五年秋期史學研究旅行記

（目的地）諏訪、天龍峽方面

十月十日の夜十時五分、飯田町驛を出發、一行は伊木先生と學生四人。

翌朝、深い靄につつまれた諏訪を通つて辰野で下車、直に伊那電鐵に乘換へた。伊那谷を走る電車は凡そ賃金の高きを以て有名であるが、又、其の軌道にカーブの多い事も記憶さるべきである。上元善光寺を車窓に拜み、飯田を通過して、八時半鼎驛に着く。